

サンニ・ヤカーの仮面

仮面(標本番号H93093、高さ/26.0cm 幅/24.5cm 奥行/27.8cm)

鈴木 正崇 (すずき まさたか)

慶應義塾大学教授

スリランカのシンハラ人の多くは、上座部仏教徒であるが、さまざまな神霊や悪霊の存在を信じている。一般に、人びとは病気になる、西洋医学の病院で診断と治療を受けると、同時に伝統医療であるアーユル・ヴェーダの医師にもかかる。この双方の効き目がある、悪霊(ヤカー)や死霊(プレータ)がとり憑く障り(ドーサ)が原因として疑われ、神霊との交渉をおこなうカプマハッタや、悪霊を祓うヤカドゥラーなどの職能者に相談に行く。特に、南西部では、病因が悪霊の障りと判断されると、仮面を用いた悪霊祓いの病氣治療がおこなわれる。

表紙の写真は、悪霊の一種のサンニ・ヤカーの仮面で、一八種類の病状をもつ悪霊のひとつとされる。引き起こされる病氣(ローガ)

には、腹痛、悪寒、高热、眼病、喉の痛み、手足の麻痺、骨の痛み、目と耳の衰弱、皮膚の疾



患、精神の乱れなどがあり、一八種類の病状のひとつを仮面であらわしている。悪霊祓い

では、ヤカドゥラーが異なる表情の仮面を被って、依頼人の患者の前に次々に登場し、自分の病状を示し、軽口を叩き、食べ物を患者からもらい、患者の身体から離れていく様子を演じる。笑いとユーモアを通して精神が解放されて人びとの絆が結び直される。悪霊の障りは、実際には心の病が多く、特にタニカマ(孤独な状態)で起こるとされ、女性の患者が大半を占める。

近代化が急速に進むなかで人びとの抱える問題も多様化している。神霊や悪霊との交渉能力をもつ人びとも、世襲による伝統的な儀礼をおこなう者だけでなく、アールータ・カプマハッタと称する仏教の解釈に合わせ、て儀礼を再編成し、神懸り能力を誇示する者も出現した。現代の癒しの専門家としてあらたな変貌を遂げようとしている。